



道内各地の活動状況

函館市縄文文化交流センター 学芸員 平野千枝

函館市縄文文化交流センターと南かやべ地域

函館市の南かやべ地域は「真昆布」で有名な漁業のまちですが、縄文時代の遺跡が89カ所もあるなど「縄文のまち」としても知られています。函館市縄文文化交流センター（以下、「縄文交流センター」）はこの南かやべ地域から出土した北海道唯一の国宝「中空土偶」にいつでも会える博物館として平成23年10月にオープンしました。登録博物館でありながら『「道の駅」縄文ロマン南かやべ』を併設しており、国宝を見ることができるユニークな交流の場として注目を集めています。平成28年には子供の足形が押し付けられた足形付土製品5点を含む土器や石器が「豊原4遺跡土坑出土品」として国の重要文化財に指定され、展示を一部リニューアルしました。

縄文交流センターでは縄文体験講座が好評をいただいております。なかでもミニチュア土器づくりが人気で、子供から大人まで、多くの方が土器づくりを体験しています。

一方、より深く縄文文化について知りたいという方を対象とした「縄文体験定期講座」や、小学生を対象とした「縄文交流センターキッズプログラム」では鹿角で釣り針をつくり、その釣り針で海釣りを行う体験講座や竪穴住居のジオラマづくりなどを行ってきました。また、フォーラムや講演会を開催し地元住民と研究者との交流にも取り組んでいます。

「道の駅」を併設していることから、国土交通省が進める「シーニックパイウェイ北海道」と連携し、沿道の清掃や花のプランターの設置、雪道を手作りのキャンドルで照らす「シーニック de ナイト」等のイベントを地域の民間団体である「南かやべ森と海の会」、「北の縄文CLUB」、「函館市南かやべ縄文文化創生の会」、「南茅部高校」とともにを行っています。また、「縄文まつり」も地域ぐるみで開催され賑わいをみせています。縄文交流センターを中心にさまざまな活動をしてきましたが、これからも縄文文化をテーマとした調査研究や交流を深め地域に根ざした魅力的なまちづくりを行ってまいります。



会員メッセージ



北の縄文道民会議 会員 牧野ゆき江

ここ数年、北海道の縄文遺跡巡りをしています。

主に道央圏の遺跡や出土品を展示している施設を訪れては、ちょこちょこ好奇心を満たしつつ学ばせていただいています。

それ以前は、奈良県周辺の古墳時代の遺跡や、全国の神社仏閣を巡っていました。

もちろん、そちらもとても魅力的で興味深い場所の数々です。が、もっと根源的な場所、と申しますか、始まりの場所というのは、やはり縄文だと思うのです。

実際に行ってみて初めて分かることも多く、百聞は一見に如かずという言葉を実感するのですが、見ただけではわからない、行っただけではわからないことも多く、行けば行くほど、学べば学ぶほどわからないことが増えていきます。

縄文の落とし穴にはまったというのか、底無し沼にはまったというのか、抜け出せる予定は無いようです。

特に、土器や土偶だけではなく、縄文から愛されてきた石、使用されてきた石について興味が尽きません。何故、遠く離れたところからその石を選んで運び、その用途に使ったのか、どうしてその石でなければならなかったのか。

今年も好奇心の赴くまま、アンテナを伸ばしていこうと思っています。



道外の縄文の構成資産から④

伊勢堂岱遺跡 秋田県

北秋田市脇神字伊勢堂岱に位置する、縄文時代後期前葉（約四千年前）の環状列石を主体とする遺跡です。4つの環状列石、墓、建物跡が見つかっており、環状列石の周囲には祭祀に関連したと考えられる建物跡が配置されています。

出土遺物は、狩や漁に使われたおびたしい量の石器、動物形・ひょうたん形・ミニチュアの土器、キノコ形土製品、幼児の足の型押しした土製品、板状土偶など、いわゆる儀器・呪術具と推定される遺物の種類と量が多く、多彩な状態であることから、この場が単なる墓域、ミニメント構築の場にとどまらず、自然の恵みに感謝祈願する儀式、ヒトの成長に関する儀式等、伊勢堂岱遺跡は縄文人の生死を含めた、生活の節目の儀式が行われた場所であったと考えられています。

問合せ 北秋田市教育委員会 生涯学習課文化班
電話 〇一八六一 六二一 六六八



「こんにちは赤ちゃん」

青森県三戸（さんのか）町の沖中（おきな）遺跡では、今から二十年前ほどの発掘で、土器や石器に混じって小さな土偶が出土しました。高さ七センチ、幅四・三センチで、時期は縄文晩期と考えられています。おくるみに包まれ、口を大きく開けた土偶のつばらな瞳は何をみつめているのでしょうか。母親と一緒にではなく、赤ちゃんだけの土偶は日本初の事例です。子どもの成長を祈ったのか、亡くなった子どもを悼んだのか。縄文人がますます身近に思えてきませんか？

縄文トピックス

早期登録の実現を！「北海道・北東北の縄文遺跡群」



「世界遺産登録推進総決起大会」開催！



平成29年4月26日（水）、東京都内で、縄文遺跡群世界遺産登録推進本部（北海道、青森県、岩手県、秋田県の4道県市町で組織）、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」世界遺産登録推進議員連盟、関係道県市町議会、関連団体など総勢250名が参加し、世界遺産早期登録実現に向けた総決起大会が開かれ、北の縄文道民会議からも5名の会員が参加しました。

大会では推進本部長の三村青森県知事や国会議員連盟の衆議院議員鈴木俊一会長、高橋はるみ北海道知事などが世界遺産登録へ向けた決意表明を行いました。

最後は参加者全員による「頑張ろう！」の三唱で締めくくり、世界遺産への登録実現に向けた熱意と強い結束を確かめました。

「北海道・北東北の縄文」
世界遺産登録推進総決

